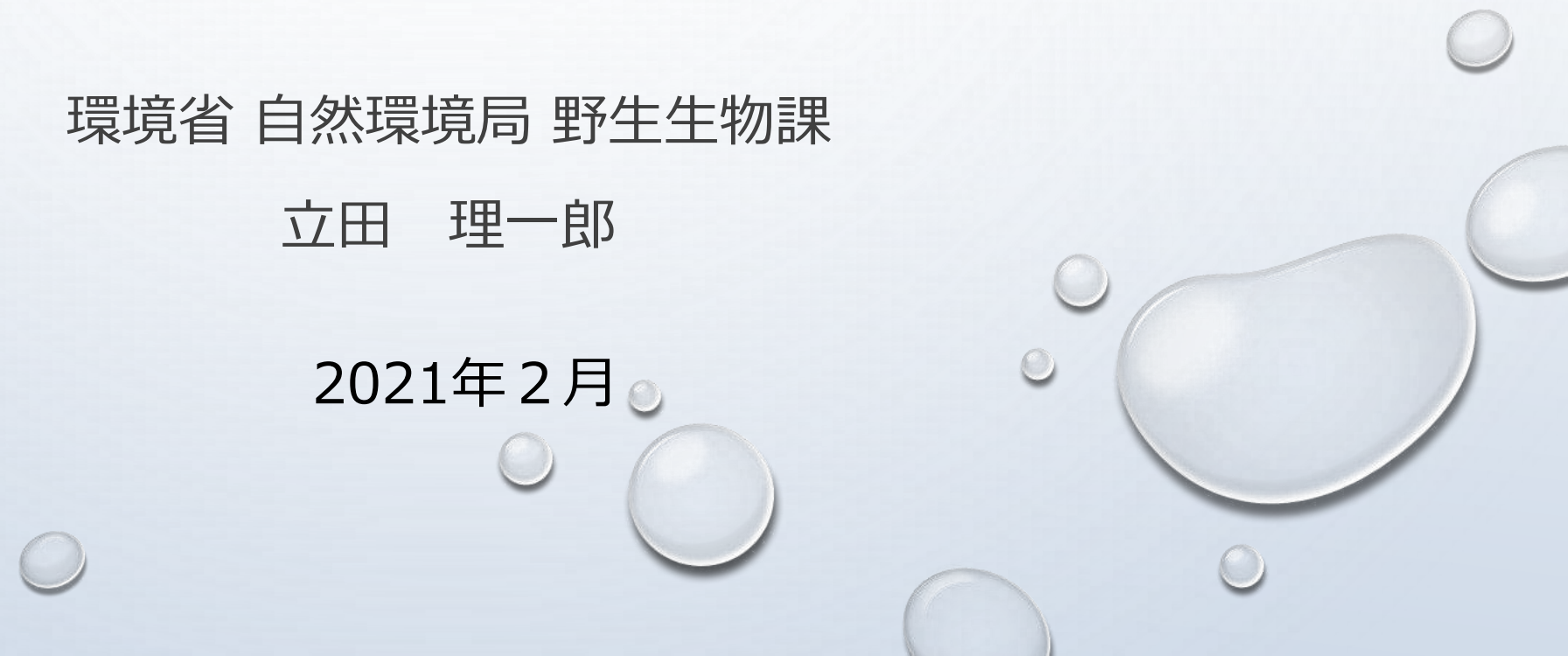


生物**多**様性行政と感**染**症

環境省 自然環境局 野生生物課

立田 理一郎

2021年2月



生物多様性国家戦略



生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する国の基本的な計画。現在の戦略は、5代目。

<生物多様性の危機>

第1の危機（人間活動や開発による危機）

第2の危機（自然に対する働きかけの縮小による危機）

第3の危機（人間により持ち込まれたものによる危機）

第4の危機（地球環境の変化による危機）

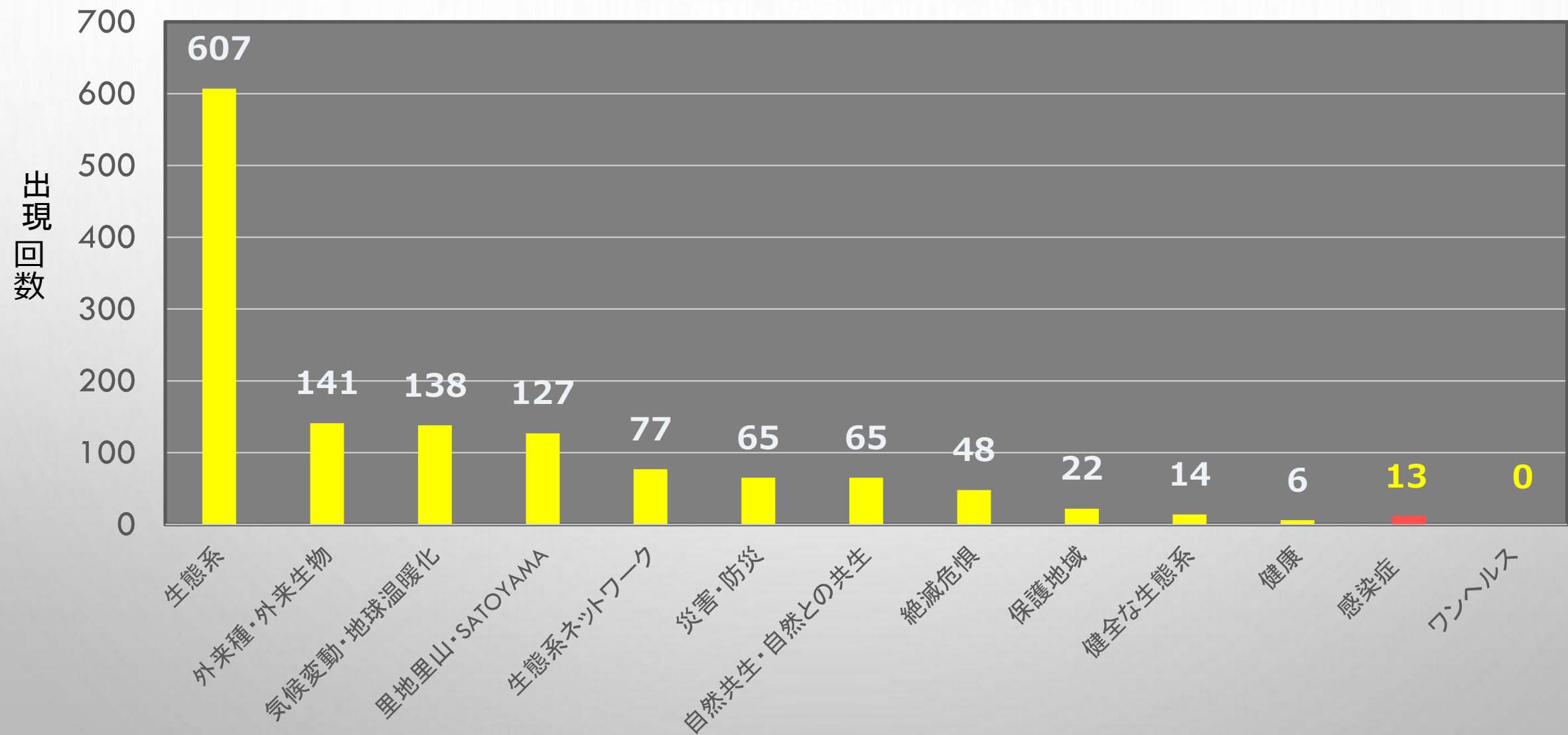
<2020年目標、2050年目標>

<愛知目標の達成に向けたロードマップ>

<5つの基本戦略>

- （1）生物多様性を社会に浸透させる
- （2）地域における人と自然の関係を見直し・再構築する
- （3）森・里・川・海のつながりを確保する
- （4）地球規模の視野を持って行動する
- （5）科学的基盤を強化し、政策に結びつける（新規）

生物多様性国家戦略2012-2020におけるキーワード



<国家戦略における生物多様性の危機>

第 1 の危機 ～開発など人間活動による危機～

第 2 の危機 ～自然に対する働きかけの縮小による危機～

第 3 の危機 ～人間により持ち込まれたものによる危機～

第 4 の危機 ～地球環境の変化による危機～

<生物多様性の危機>

第 1 の危機 ～開発など人間活動による危機～

生息地の破壊×感染症

希少な野生生物の保全×感染症

遺伝子資源の保存×感染症

第 2 の危機 ～自然に対する働きかけの縮小による危機～

第 3 の危機 ～人間により持ち込まれたものによる危機～

第 4 の危機 ～地球環境の変化による危機～

第1の危機 ～開発など人間活動による危機～

絶滅危惧種の保護増殖×感染症

<再導入>

- 絶滅危惧種の保存のため、
生息域外での保護増殖を行う
- 増殖個体を域外から再導入
(本来の生息域に戻すこと)
する際の課題の1つとして、
感染症の問題
- 域内で増殖・順化する施設設置



第 1 の危機 ～開発など人間活動による危機～

野生動物への給餌×感染症

世界のナベヅルのほとんどが集結する



<生物多様性の危機>

第1の危機 ～開発など人間活動による危機～

第2の危機 ～自然に対する働きかけの縮小による危機～

鳥獣の管理×感染症

第3の危機 ～人間により持ち込まれたものによる危機～

第4の危機 ～地球環境の変化による危機～

第2の危機 ～自然に対する働きかけの縮小による危機～

鳥獣の管理×感染症

【ニホンジカ】

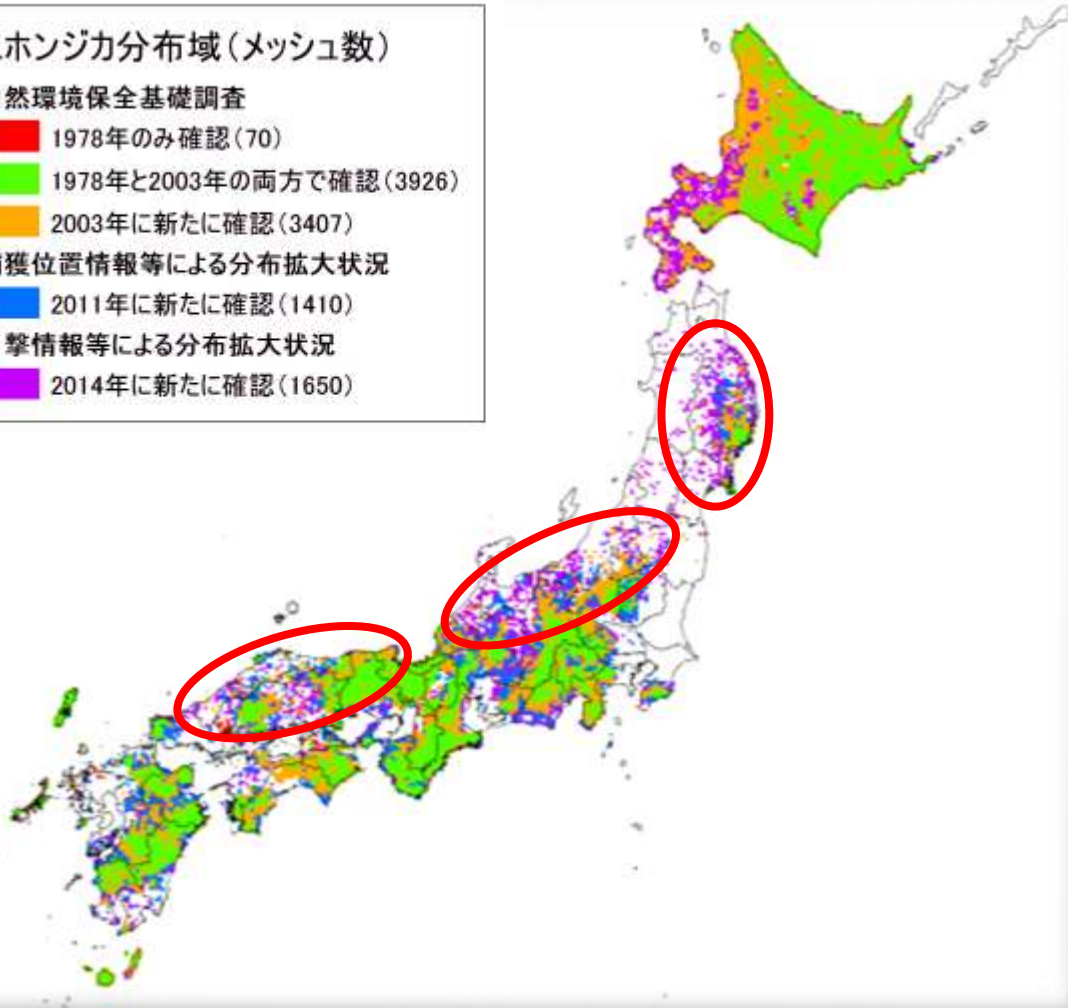
ニホンジカ分布域(メッシュ数)

自然環境保全基礎調査

- 1978年のみ確認(70)
- 1978年と2003年の両方で確認(3926)
- 2003年に新たに確認(3407)

捕獲位置情報等による分布拡大状況

- 2011年に新たに確認(1410)
- 目撃情報等による分布拡大状況
- 2014年に新たに確認(1650)



【イノシシ】

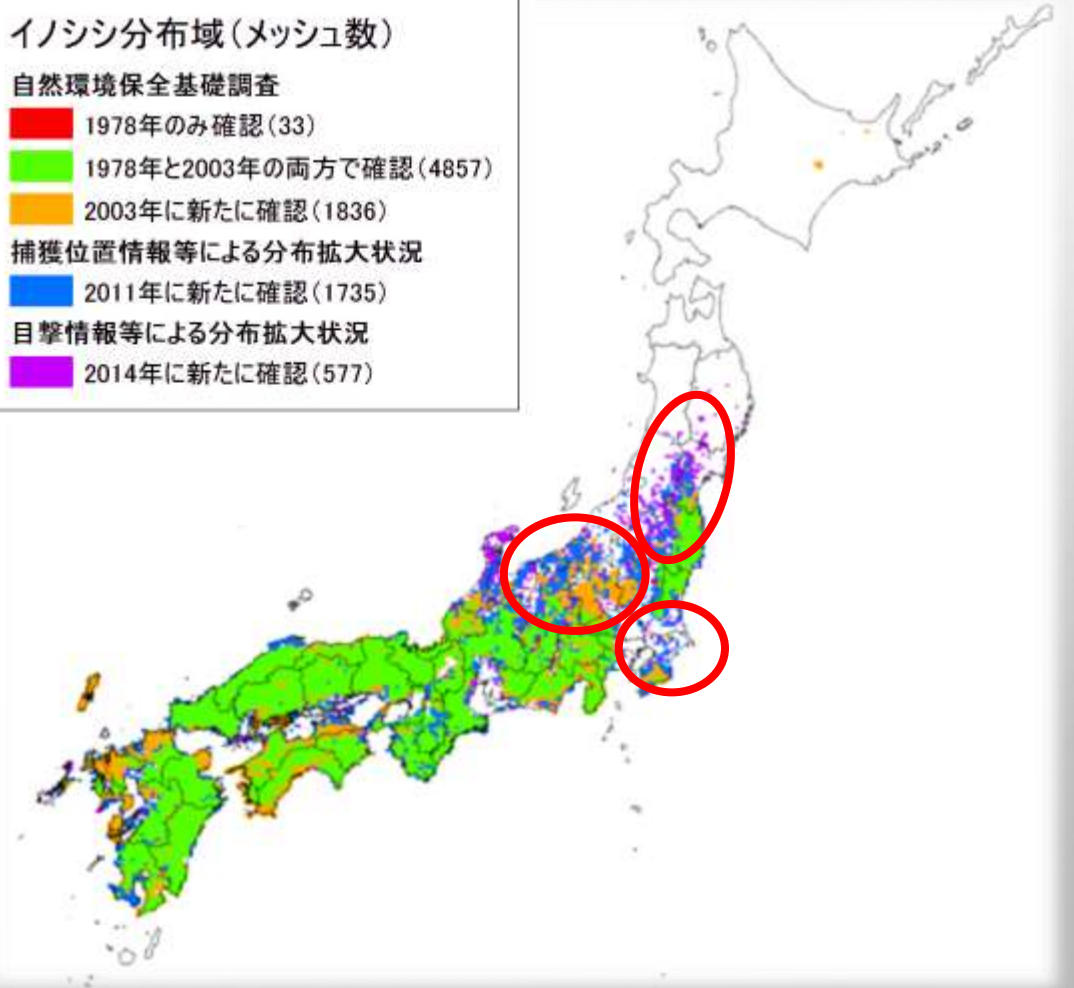
イノシシ分布域(メッシュ数)

自然環境保全基礎調査

- 1978年のみ確認(33)
- 1978年と2003年の両方で確認(4857)
- 2003年に新たに確認(1836)

捕獲位置情報等による分布拡大状況

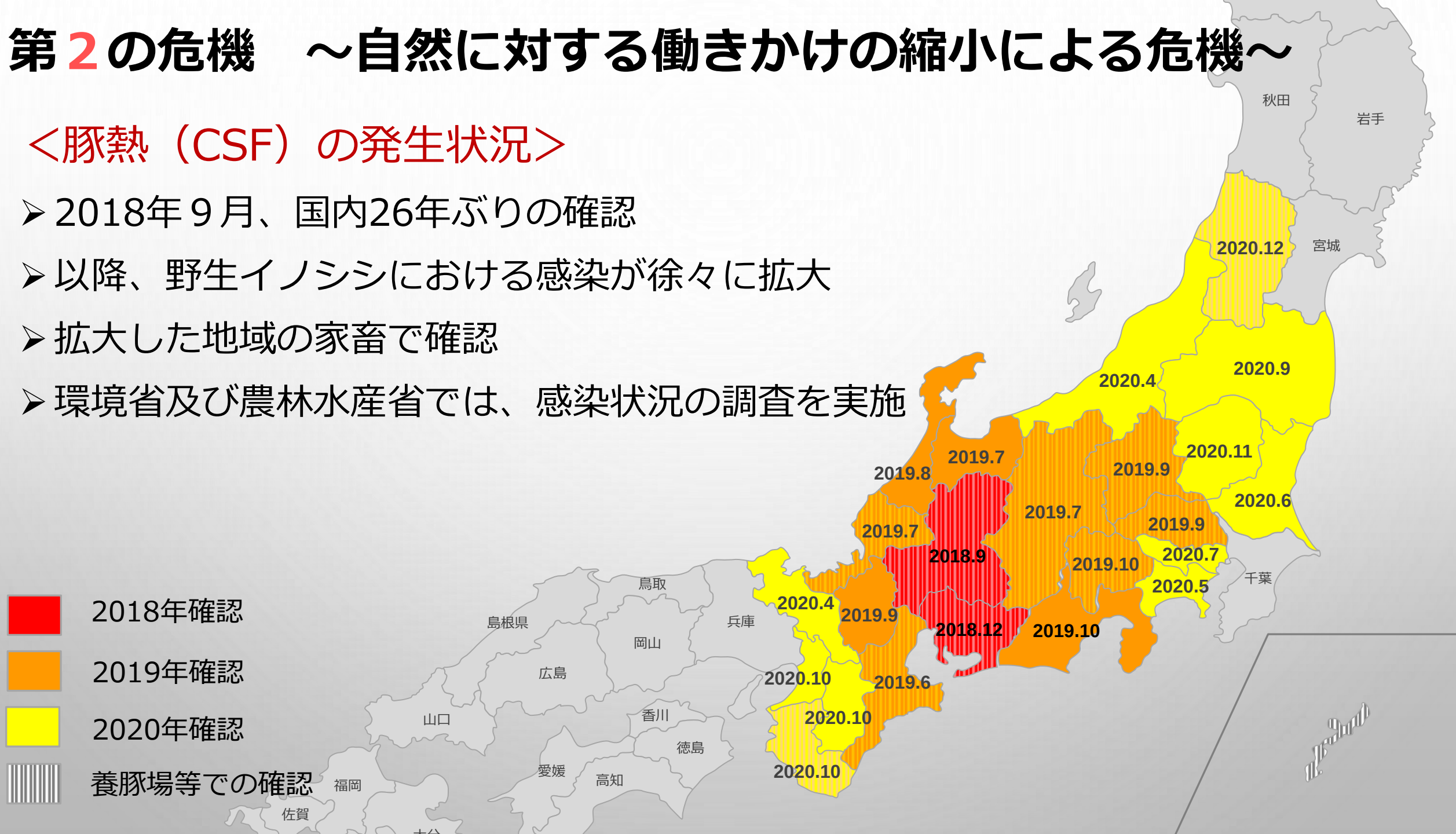
- 2011年に新たに確認(1735)
- 目撃情報等による分布拡大状況
- 2014年に新たに確認(577)



第2の危機 ～自然に対する働きかけの縮小による危機～

＜豚熱（CSF）の発生状況＞

- 2018年9月、国内26年ぶりの確認
- 以降、野生イノシシにおける感染が徐々に拡大
- 拡大した地域の家畜で確認
- 環境省及び農林水産省では、感染状況の調査を実施



<生物多様性の危機>

第 1 の危機 ～開発など人間活動による危機～

第 2 の危機 ～自然に対する働きかけの縮小による危機～

第 3 の危機 ～人間により持ち込まれたものによる危機～

外来種×感染症

野生動物の取引×感染症

第 4 の危機 ～地球環境の変化による危機～

第3の危機 ～人間により持ち込まれたものによる危機～

外来種×感染症

【ノネコ】



写真：小笠原自然文化研究所

【アライグマ】



【キタリス】



写真：一財）自然環境研究センター

【アフリカマイマイ】



【クマネズミ】



【ハクビシン】



写真：三浦貴弘

第3の危機 ～人間により持ち込まれたものによる危機～

＜カエルツボカビ 2006年＞

- 1998年に海外で初確認された両生類の感染症
- パナマやオーストラリアにおける両生類の絶滅においてこの感染症が関与
- 2006年に日本のウシガエル（特定外来生物）で確認

日本の両性類が危ないと

問題になったが・・・

- 日本が起源の可能性を示唆



**みんなで防ごう！
カエルツボカビ症**

ツボカビをひろげないで、
ボクたちをまもってください。

「カエルツボカビ症」に
かかったらボクたちは
死んでしまいます。

ツボカビは、両生類の皮フに寄生するカビの一種です。
ヒトを含む哺乳類・鳥類・爬虫類・魚類には感染しません。

**飼っているカエルを
あわてて野外に捨てたり
しないでください！**

 飼っているカエルの様子がいづれと違ったら
動物病院に相談してください。

 カエルツボカビ症について
詳しい情報は

見ただけで判断することが難しいので、
必要場合は動物病院が専門の検査
機関に検査の依頼を行います。カエル
を殺さなくてもできる方法です。

下記ホームページで紹介されています。
環境省・外来生物法のページ
<http://www.env.go.jp/nature/info/tsubokabi.html>

環境省
Ministry of the Environment

制作：環境省自然環境局野生生物課
編集：（現）自然環境センター

<生物多様性の危機>

第 1 の危機 ～開発など人間活動による危機～

第 2 の危機 ～自然に対する働きかけの縮小による危機～

第 3 の危機 ～人間により持ち込まれたものによる危機～

第 4 の危機 ～地球環境の変化による危機～

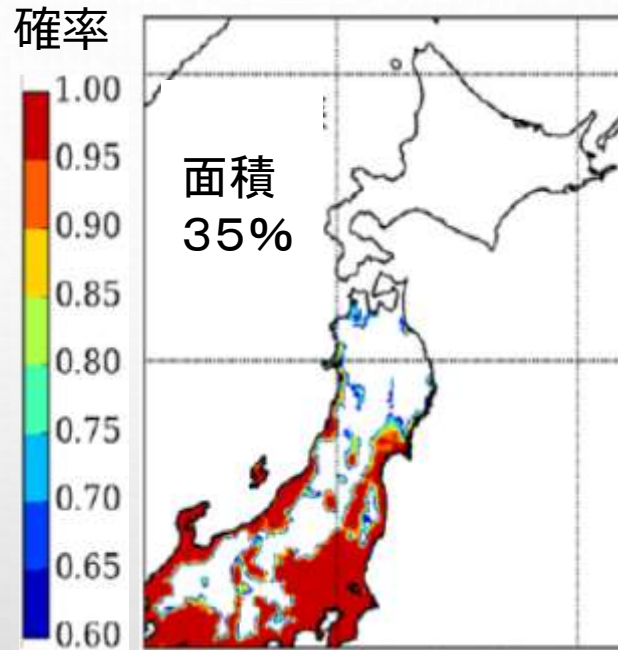
生物の生育・生息域の変化×感染症

第4の危機 ～地球環境の変化による危機～

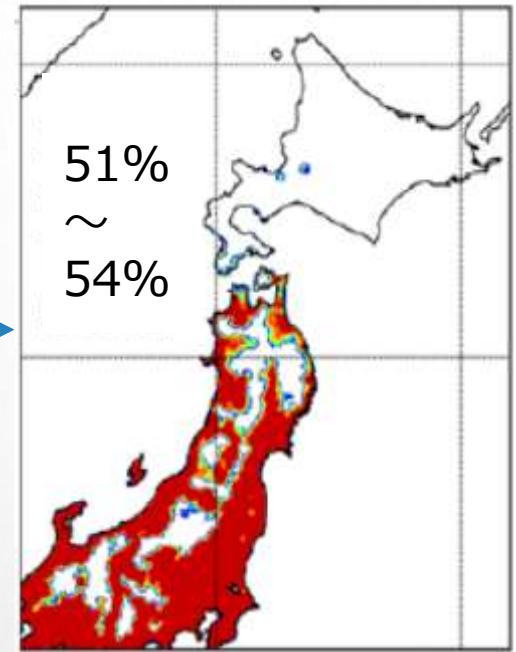
<気候変動による里地里山の変化>

- 放棄竹林は、現在は主に西日本で問題
- 気候変動が進んだ場合、東日本や北日本においても分布地域が拡大する可能性
- 東日本でモウソウチク、マダケの生育に適した土地が増加

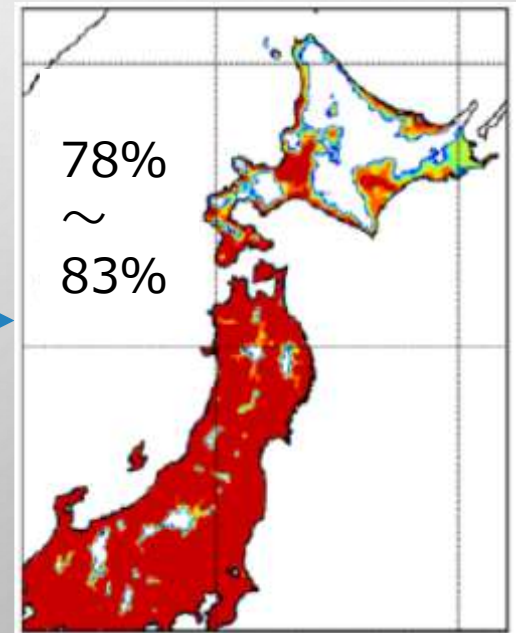
現在 : 35%
2℃上昇 : 51～54%
4℃上昇 : 77～83%



2℃上昇



4℃上昇



気候変動の観測・予測及び影響評価統合レポート2018を編集
(環境省、文部科学省、農林水産省、国土交通省、気象庁)
MRI-AGCM、RCP8.5シナリオを使用。出典：東北大学

第4の危機 ～地球環境の変化による危機～

気候変動×感染症

昆虫やダニによって媒介される感染症は気候変化の影響を受けやすい。
しかし、気候・環境変化を介した影響には、気候以外の様々な環境要因も作用し、地域差も大きい。

